

発行責任者 高橋 広
編集責任者 大角 浩

根原事故
同様の状
況が心配
される。夏

本年度二回目の 安全経協開催される

十二月六日、十四時より本社一九〇七号会議室において、今年度二回目の経営協議会安全部会が開催されました。組合側から佐藤書記長、宮崎副委員長、矢部、武笠、伊藤執行委員と各職協代表が参加し、会社側、安全企画部、各主管部と意見交換がされました。会社側からは二〇一三年度上半期の鉄道運転事故、輸送障害、労働災害の概要について資料説明がされ、その後、それぞれの事象について、組合側、佐藤書記長以下それぞれが質問し、会社の回答を求めていく形式で行い、その中で要望や改善に向けての意見が出されました。鉄道運転事故は列車事故、踏切障害事故、鉄道人身障害事故のいずれも対前年比がプラスとなっており、脱線事故は三件あり、うち相模湖駅構内の脱線事故について原因は想定されることは考えられるが調査中であり、対策として脱線カードを取

り付けたと説明し、組合側から自然災害の影響もあるが件数が増えているのではないかと、北海道の例もあるのでは何か対策を採っているのか迫りました。また、踏切障害事故や鉄道人身事故が対前年で増えている件では、踏切事故対策で横浜支社ではキャンペーンを実施、酔客対策としてポスターやホームドア設置の推進を行っているが、前回同様の意見が出され対策が急がれています。労働災害においては死亡災害はなかったが、三大労災で触車一名（不休）墜落二名（協会社社員）が報告されました。（触車は上野保技セの見張り員）

電気職協からは、踏切障害事故に関連し、大根原踏切事故対策として出された鳴動持続時の迂回誘導について、踏切故障以外に、人身事故や風・雨規制で件数が増えていると信通社員の出動が増えている。大型車の通行や現地まで時間がかかる等の問題もあり、第三者加害は出ていないが罵声を浴びせさせられている。大

の豪雨に見られるように自然災害も多くなっている、設備の強化としてPBを増設してもらいたいと要請をしてきました。会社は、津波対策で増設しているが、PBを簡単に押されるという疑念も持っているという回答がされました。

水戸電協定期総会開催

水戸地本電気協議会は十二月七日十時より、水戸地本会議室において第二十六回定期総会を開催しました。地本から赤沼書記長と出羽執行委員が出席、東日本電協からは高橋議長と参加しました。

高木議長から、地電協の組織実態について、少ない組合員から、さらに来年二名が退職するという現実な



ので、組織拡大が重要な課題になってくる。常磐線の広野・竜田間延長について電気



関係も工事が始まっているが、放射線量の数値が大きいところもあり社員が不安な中で進められている。通信関係では長距離運転の問題も何とかしてもらいたい。という挨拶があり、赤沼書記長からは組織拡大の取り組みと常磐線延長の関係で、楢葉町の現地視察に入ってきたが、黒い袋と作業員だけで、本日に三月に帰町できるか疑問がのこる現状で検討が必要である。と挨拶がされました。質疑応答では五名の委員から積極的な発言があり、メンテナンスの改善で導入された直轄検査は技術力向上になっていない。東電所が入って業務区分が曖昧になっている。遠距離運転や泊り込みの検査もあり、超勤も多くなっている。放射線汚染の問題にどう取り組んでいくのか、技術継承が全く無い、など多くの問題

が出されました。

役員改選については、高木さんが退任し、新たに木田さんが議長に選出されました。

【役員体制】

議長 木田 郁夫(水戸電力技セ)
事務局長 保坂 功(水戸信通技セ)

高崎地電気協議会

高崎地方電気協議会は十二月十四日十五時より、高崎信通技セ会議室において第六十三回定期委員会を開催しました。委員会には地本から唐沢書記長が出席、東日本電協からは高橋議長が参加しました。

岸議長と唐沢書記長からは、安倍政権の中で「特定秘密保護法案」の強行採決や、オスプレイの県内での訓練を行なうなど危ない方向に向かっている。職場では感電事故や触車事故が多くなってきている。コンプライアンスも守られていない。北海道の



事故は分割民営化の負の遺産で当初から経営に問題もあり、革マルの影響のあ



る北労組と会社の問題も週刊誌で取り上げられている。組織拡大は保線の拡大はあるが電気ではまだない、積極的に声を掛けていきたいという挨拶がされました。方針では①定年延長に向けた闘い②昇進昇格試験差別撤廃に向けた闘い③労働条件改善の闘い④組織強化拡大に向けた闘い等が議論された、討論ではエルダーやパートナー会社の労働条件をどう改善していくのかという質問や信号、通信、電力分科から職場の問題と申し入れの説明がありました。

役員改選については、現行体制。

【役員体制】

議長 岸 三男
副議長 西山 雅巳
副議長 向井 浩
事務局長 柳沢 博

千葉地電気協議会

千葉地方電気協議会は十二月二十二日十三時より、国労千葉地方本部会議室において二〇一三年度定期委員会を開催しました。地方本部より坂口委員長と加藤業務部長、また工務協から大野議長が出席し、東日本電協からは高橋議長が参加しました。当日は役員の身内の不幸等もあり、

参加者が少ない中での委員会となりましたが、横浜支社所属ではありませんが、テムス千葉電力SCで働いている国労組合員の石崎さんも参加して今後の関係も持つていこうと紹介し、委員会では北嶋議長から「メンテナンスの改善」は職場実態とかけ離れている。最近、待避不良が続いていて職場に若手社員が増えている中で技術が育っていない。また風速計故障対応、大根

原踏切事故対策、
検電接地、
上野保技、
七触車事故対策等の
通達が



立て続けに出されている。交渉にむけて要求を出していきたいと挨拶しました



坂口委員長からは、組織現状は厳しい現状

にあるが拡大の取り組みを進めていきたい。自分も専従から戻って忘れていたことも多くなっているが、若い人も含め、やる事が多くなっている。対策をするための対策になっている。通達が多くなっていることは認識している。過去の経緯を知らない人がたな卸しを言っている点に問題がある。と挨拶されました。参加者からの意見はテムスの信号では感電事故防止対策で業務が難しくなっているという意見から様々な意見や現状が出され、さらに場所を変えての交流と続きました。

【役員体制】

議長 北島 利則
副議長 西村 勲
事務局長 今野 弘樹